日本キリスト教団 **東金教会〔４１〕**

2020年１０月１１日 聖霊降臨節第２０主日礼拝

年度目標　《教会の民として生きる》

聖　　句　良いし知らせをエルサレムに伝える者よ。声をあげよ、恐れるな　イザヤ書４０章９節

【礼拝式次第】

司式	井上村
奏楽	中村
受付	今井
案内	藤同
名札係	森川
礼拝感謝祈祷	阿波谷
〃　〃	岡部

前奏	中村
讃美歌７０	一同
使徒信条５６６	〃
交読文３９	司・会衆
主の祈り５６４	一同
聖書	司会者
〈マルコ福音書５章１節～２０節〉	
祈祷	井上
新聖歌１８５	一同
み言葉の伝え	中村
〈ゲラサ人の地〉	
讃美歌２３９	一同
献金	
礼拝感謝	阿波谷
〃　〃	岡部
報告	井上
頌栄５４１	一同
祝祷(派遣)	中村
後奏 新聖歌５８	聖歌隊

【集会案内】

聖研祈祷会　１０月１４日(水)午後7時半～
早天祈祷会　7:00～メーヤー館(除・木/日/祭日)
理事・評議員・長老会　本日礼拝後
聖歌練習　本日礼拝後
定期長老会　聖歌練習後
聖書輪読会　１０月１１日(日)9:50-10:10
礼拝準備祈祷　１０月１１日(日)10:25-10:30

【報告】

☆本日は神学校日です。神学校のお働きが神に用いられ、人間中心の世でありますが、神のお言葉が真剣に受け止められる世となりますよう祈りを重ねたいと思います。

☆幼稚園新年度願書配布が１０月９日(金)よりなされております。幼児教育は神さまから託された私たちの大事な業であり、私たちの教会にとっては保育園・幼稚園・教会学校と繋がる大切な流れであります。この業がいよいよ用いられますようご加祷宜しくお願い致します。

☆園児募集ポスターができております。できるだけ多くの方にお貼り戴くことを願っております。お貼り下さる方は宜しくお願い致します。

☆バザー献品を受け付けております。ご献品宜しくお願い致します。なお今年は外部への宣伝はしない形で幼稚園・保育園の父母を中心にする予定です。

☆星野富広カレンダー11月15日が〆切りです

※礼拝の持ち方についてのお願い
アーメン頌の讃美は最前列に座られる方は講壇を向いて起立して讃美しても可です。それ以外の方は最後まで座ったままで讃美して下さい。

※千葉支区祈りのカレンダー（掲示板）
今週は 千葉教会(真壁 牧師　川添 伝道師)が 対象教会です。お祈り下さい。

※マルコ福音書連続講解説教のCD希望者は牧師まで申出下さい。

※安延　兄主催の「東金広報せんりゅう大会」ではせんりゅうの応募をもとめています。応募期限は10月20日(火)、テーマは「文化」「食」から選択してください。詳しくは掲示板を御覧下さい。

【10月11日～17日の誕生者】

○10/12井上元兄　○10/12椎原義昭兄
○10/16松村香姉　※互いに主に繋がる枝として祈り合わせて参りましょう。

【先週集会状況】

集会名	男	女	計
主日礼拝(10/4)	16	32	48
聖研祈祷会(10/7)	3	1	4
聖書輪読会(10/4)	3	2	5
教会学校(10/4)	9	8	17

早天祈祷会			
日	男	女	計
10/5	1	1	2
10/6	1	1	2
10/7	1	1	2
10/9	1	1	2
10/11	2	1	3

主日礼拝献金(１０/４)……３９,８００円
教会学校献金(１０/４)……１４,４５０円

【今日のメッセージ】

題　〈ゲラサ人の地〉
聖　書　マルコ福音書5:1～２０
1・カオス(混沌)の中に

2・証し

3・小さな、確実な勝利

【次週(１０月１８日)礼拝式案内】

み言葉の伝え　〈引き出す力〉
聖　　書　マルコ福音書５：２１～３４
交　読　文４０
讃　美　歌７４番　１６６番
新　聖　歌１７６番

【次週(10月18日)礼拝式当番者】

御言葉の伝え …	中村田里
司式者 …	藤
奏楽者 …	中
受付者 …	王
案内者 …	王
名札当番 …	井上
礼拝感謝祈祷 …	武田
〃　〃 …	猪野谷
cs お話し …	阿波
会堂清掃者 …	薬師寺
〃　〃 …	王
花係 …	猪野本
看板書き …	澤

【聖書から】

イエスは言われた。「なぜ怖がるのか。まだ信じないのか。」弟子たちは非常に恐れて「いったい、この方はどなたなのだろう。風や湖さえも従うではないか」と互いに言った。
マルコによる福音書四章四〇～四一節

ガリラヤ湖が突風に覆われた時、弟子達は慌てふためいた。突風のために小舟は傾き、波は船縁を越え、舟が沈まんばかりに舟底に入って来たのである。誰が恐れないでいられよう。漁師あがりの弟子達でさえ恐怖で正気を失うばかりであったのも当たり前の様に思うのである。ところが主イエスのお言葉はまことに厳しいものがあった。

「なぜ怖がるのか。まだ信じないのか」と。けれども繰り返すがこの弟子達の恐怖は当たり前であり、私たちがこのような状況に置かれたとしたらこの弟子たちどころではない騒ぎであったと思う。主は一体何を彼らに期待したのだろうか。危急に際して泰然としていることを求めたのか？それが信仰と言うものだ、貴方達の慌てふためく様は見苦しいとでも言われるのか。私はそうではないと思う。ただ私たちが神を信じると言うとき、その信じる深さ、広さが問われていると思うのである。私たちが私たちの内なる深淵、あるいは私たちを取り巻く外界を探る時、私達の信仰の及ぶ範囲を私たち自身の思考や私たちの経験を物差しとし、神の力の及ぶ範囲を限定してしまうところがないだろうか。たとえば此所での弟子たちのように神の力は自然の前に無力であるとか人間の無限の悲しみや恐怖、不安を残らず救いとってくださるところまで神の力は及ばないと勝手に限定し、信じられずおっかなびっくりの信仰であることを主は叱責されたのではないか。私たちは自分を振り返り、果たしてどこまで信仰の射程が到達しているかを問われる。私達は信仰の未熟さを感じざるを得ない。けれども信仰は深化し、拡大する。それを為して下さる神のお力を注入され、小さくまとめられた信仰でなく、たとえ破れがあっても深められ拡大された信仰を持ちたい。

【礼拝心得】

①礼拝は前奏から後奏までを守る。
②入堂したら私語を交さず、前奏までの時を黙想する。
③遅れてきた者は静かに入堂し、特に祈祷の時は入堂を控え、その場で共に祈りを守る。
④礼拝後は互いに挨拶を交し、交わりの時を持つ。
⑤各自週報棚を整理し、欠席者に週報を届ける。